

〔IV〕 次のコラムを読み、下の問に答えなさい。

現代社会ではステレオタイプによる偏見の問題が増大しています。ステレオタイプ<sup>(a)</sup>とは、ある集団で多数を占める人々の特性です。個人の特性をその人が属する集団のステレオタイプから判断するとしばしば誤解が起きます。たとえば〇〇体育大学の学生にアンケートをとったところ8割がスポーツ好きだったとしましょう。この事実を知っていると、「その大学の学生であるAさんもスポーツ好きなのだ」と判断しやすいのです。もしAさんが「スポーツ好きでない」2割の学生ならば、誤解を訂正する必要がたびたび生じます。個人がスポーツ好きかどうかは、誤って判断されても大きな問題にはならないでしょうが、個人の信条や行動傾向などまでもが属する集団によって判断されてしまえば、個人への偏見につながります。

人間がステレオタイプによって他者を判断しがちになるのはなぜでしょうか。それは比率を知っていてもステレオタイプによる二者択一<sup>(b)</sup>ほどうまく判断できないからです。たとえば、〇〇体育大学の学生が100人いて、あなたはそのうちの80人がスポーツ好きと知っていたとします。各人がスポーツ好きかどうかをどのように判断するのでしょうか。ほかに手がかりがなければ、集団内の存在比率に従ってランダムに8割を「スポーツ好き」と、2割を「スポーツ好きでない」と判断するかもしれません。すると下の表のように、「スポーツ好きの人」の8割が正しく判断され、「スポーツ好きでない人」の2割が正しく判断されます。合計68人が正しく判断されることとなります。ところが、この人数は、ステレオタイプに従って全員を「スポーツ好きの人」と判断した場合に正しく判断される人数「80人」を下回るのです。

	スポーツ好きと判断	スポーツ好きでないと判断
スポーツ好きの人	64人	16人
スポーツ好きでない人	16人	4人

同様に考えれば、存在比率が6割であっても9割であっても、その比率にお構いなしにステレオタイプ判断したほうがよいことがわかります。だから、集団内の存在比率が正確にわかって、個人を判断するときには単に多数である

かどうかのステレオタイプが使われてしまうのです。

では、ステレオタイプによる誤解を減らすにはどうしたらよいでしょうか。まず第一に、集団を小さくして誤解の可能性を減らすことです。○○体育大学の学生(c)の8割がスポーツ好きだったが、大学院生のスポーツ好きは4割にとどまっていたとしましょう。Aさんが大学院生であれば「スポーツ好きでない」と正しくステレオタイプ判断できます。ただ、多数派が反転するほどの小集団を特定するのは容易ではありません。第二に、個人の情報をなるべくオープンにすることです。ステレオタイプ判断を利用するまでもなく個人の特性を知ることができれば、誤解にもとづく偏見は減少すると考えられます。(d)

**学習指導要領 (1) - 知・技 - ウ**  
**学習内容 (1) - ウ 情報技術と情報社会**

(問 1) 下線部(a)現代社会ではステレオタイプによる偏見の問題が増大とあるが、増大する要因についてもっとも適切な記述を、次の①～⑥の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ひとりの人がいろいろな集団に属するようになってきたから
- ② 科学技術が発展して物事を割り切る思考が発展してきたから
- ③ 学校教育が画一的な答えを要求するのでそれが習慣化しているから
- ④ 本来それほど知らない人に対しては敵がい心を抱く傾向が人間にあるから
- ⑤ それほど知らない人とも密にコミュニケーションがとれるようになってきたから
- ⑥ 情報メディアが発達して、それほど知らない人とも関わりをもつ状況が増加してきたから

学習指導要領 (4) - 思・判・表 - ウ  
 学習内容 (4) - ウ データの取扱いと傾向の可視化

(問 2) 下線部(b)比率を知っていてもステレオタイプによる二者択一ほどうまく判断できないとあるが、次の図は双方を比較した表計算ソフトのシート画面である。C列「二者択一判断」ではステレオタイプにより存在比率が高いほうをつねに判断する結果の合致度が、D列「ランダム判断」ではコラム内の表のように存在比率に従ってランダムに判断した結果の合致度が、E列「合致度の優劣」では双方の合致度の大小関係が算出されている。

このシートにおいて、C3のセルには計算式「=IF(A3>B3,A3,B3)」が入力され、D3のセルには **ス** が、E3のセルには **セ** が入力されている。これら3つの計算式は、それぞれ下に向かって第4行から第23行までのセルに相対参照設定でコピーされている。

C3 : X ✓ ✖ =IF(A3>B3,A3,B3)					
	A	B	C		E
1	スポーツ好きの存在比率		判断方法による合致度		合致度の優劣
2	好き	好きでない	二者択一判断	ランダム判断	
3	0.00	1.00	1.00	1.00	=
4	0.05	0.95	0.95	0.91	>
5	0.10	0.90	0.90	0.82	>
6	0.15	0.85	0.85	0.75	>
7	0.20	0.80	0.80	0.68	>
8	0.25	0.75	0.75	0.63	>
9	0.30	0.70	0.70	0.58	>
10	0.35	0.65	0.65	0.55	>
11	0.40	0.60	0.60	0.52	>
12	0.45	0.55	0.55	0.51	>
13	0.50	0.50	0.50	0.50	=
14	0.55	0.45	0.55	0.51	>
15	0.60	0.40	0.60	0.52	>
16	0.65	0.35	0.65	0.54	>
17	0.70	0.30	0.70	0.58	>
18	0.75	0.25	0.75	0.63	>
19	0.80	0.20	0.80	0.68	>
20	0.85	0.15	0.85	0.75	>
21	0.90	0.10	0.90	0.82	>
22	0.95	0.05	0.95	0.91	>
23	1.00	0.00	1.00	1.00	=





問6, 問7 { 学習指導要領 (1) - 思・判・表 - ウ  
 学習内容 (1) - ウ 情報技術と情報社会

(問 6) 本コラムの趣旨としてより妥当な記述を次のA～Dのうちから2つ選ぶとどれとどれか。次の①～⑥の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- A. ステレオタイプ判断を根絶するための社会制度を設けよう
- B. ステレオタイプ判断には相応の合理性があるので蔓延している
- C. 情報公開によってステレオタイプ判断が必要な機会を減らそう
- D. ステレオタイプ判断よりも有効な、比率による判断や推理力を養成する教育を行うべきである

- ① AとB
- ② AとC
- ③ AとD
- ④ BとC
- ⑤ BとD
- ⑥ CとD

(問 7) 日本は諸外国に比べ、日常会話で本音を語る度合いが低いと指摘されている。そうだとすると、日本におけるステレオタイプ判断による誤解は、諸外国に比べて多いただろうかそれとも少ないだろうか。本コラムの内容をふまえたうえで、あなたの考えを理由とともに80字以内で記述しなさい(句読点なども各1文字と数える)。

(下のマス目は、問7の下書き用に使用してよい)

5					10			

(以上問題終)